

# 2009年3月期 第3四半期決算 (08年4月～12月累計)

2009年1月30日  
東京ガス株式会社



### <見通しに関する注意事項>

本プレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替相場、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。

# 決算概況



# 【連結】09.3月期 第3四半期決算



(億円)

## 前年同期比 増収減益

### 【ガス販売量増・ガス粗利悪化】

工業用を中心としたガス販売量の増  
(前年同期比 +132百万m3、+1.3%)

スライドタイムラグ等による粗利悪化  
(TG分)

タイムラグ ▲148億円

料金引き下げ(08年4月~) ▲53億円

### 【退職給付数理計算上の差異費用】

TG分 +56億円

### 【連結子会社の特別利益】

リース会計基準導入に伴う連結子会社の  
特別利益発生 +78億円

	FY08 第3Q実績	対前年 同期比
売上高	11,613	+1,604 (+16.0%)
営業損益	▲139	▲373 (▲159.5%)
経常損益	▲180	▲402 (▲181.3%)
当期純損益	▲73	▲200 (▲157.6%)

### <経済フレーム>

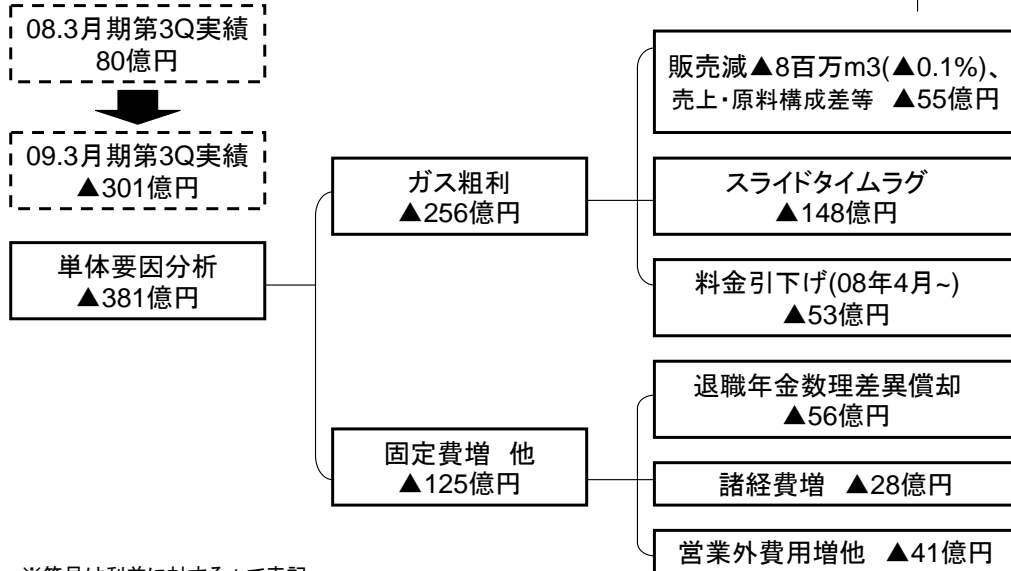
	FY08	FY07	差異
原油価格 (\$/bbl)	105.05	73.47	31.58
為替 (円/\$)	102.92	117.35	▲14.43
気温 (°C)	19.4	19.6	▲0.2

2

本四半期は、年初来の原料費の高騰によるスライドタイムラグの未回収額の増加を主要因として、営業利益は対前年同期▲373億円減の▲139億円に、経常利益は同じく▲402億円減の▲180億円に、当期利益では同じく▲200億円減の▲73億円にそれぞれなりました。なお、増減率はいずれも前年が黒字で今年度が赤字のため算定しておりません。

総売上高は原料費の高騰による料金スライドが寄与し、対前年1,604億円・16.0%増の1兆1,613億円となりましたので、対前年同期増収減益となりました。

## 【単体経常利益】 09.3月期第3四半期 対前年同期比 増減要因分析



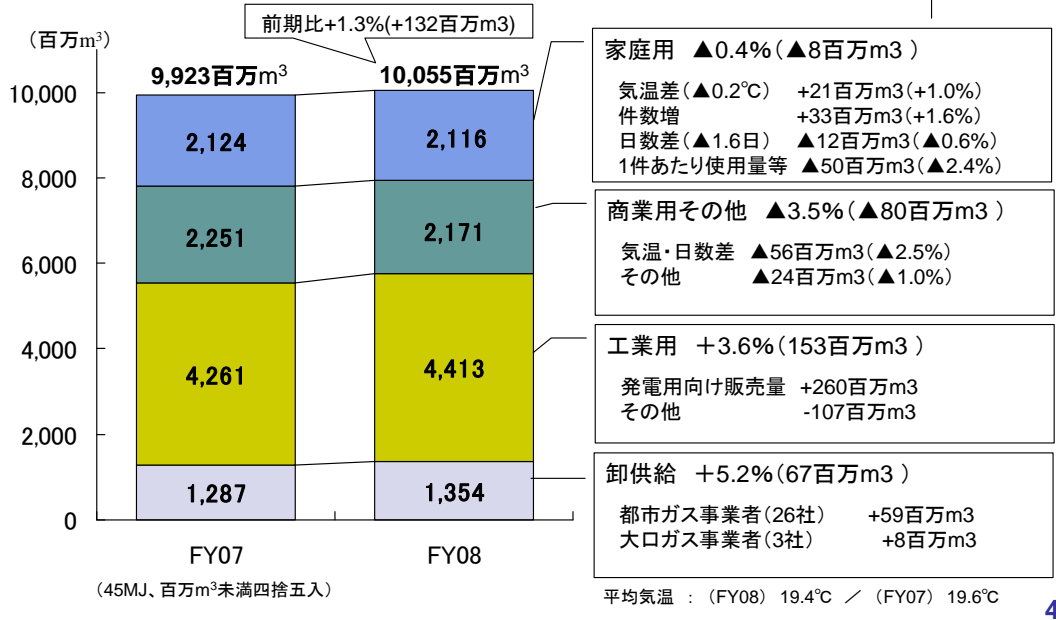
※符号は利益に対する±で表記

3

経常利益対前年同期減益▲402億円の内、東京ガス単体の減益が▲381億円を占めていますが、その内訳はスライドタイムラグの未回収増による影響が▲148億円見込まれます。未回収発生額の実額は前年同期が▲389億円、本年が▲537億円でありました。

その他の減益要因としては、単体ガス販売量対前年度減少▲8百万m3に加え、用途別構成の変化に伴うガス粗利減▲55億円、前年度の年金運用の悪化に起因する退職手当年金数理差異償却費に伴う諸給与負担▲56億円、昨年4月からの料金引き下げによる減収影響▲53億円、保安対策経費・事業税など諸経費の増加28億円、営業外収支の悪化▲37億円が主なものです。

# 【連結ガス販売量】09.3月期第3四半期 4月~12月期間 対前年比較分析



売上高のベースとなるガス販売量についてご説明いたします。連結販売量全体では対前年同期1億32百万m³・1.3%増の100億55百万m³となりました。

なお、単体販売量は対前年▲8百万m³・▲0.1%減の98億6百万m³と前年同期を下回りました。

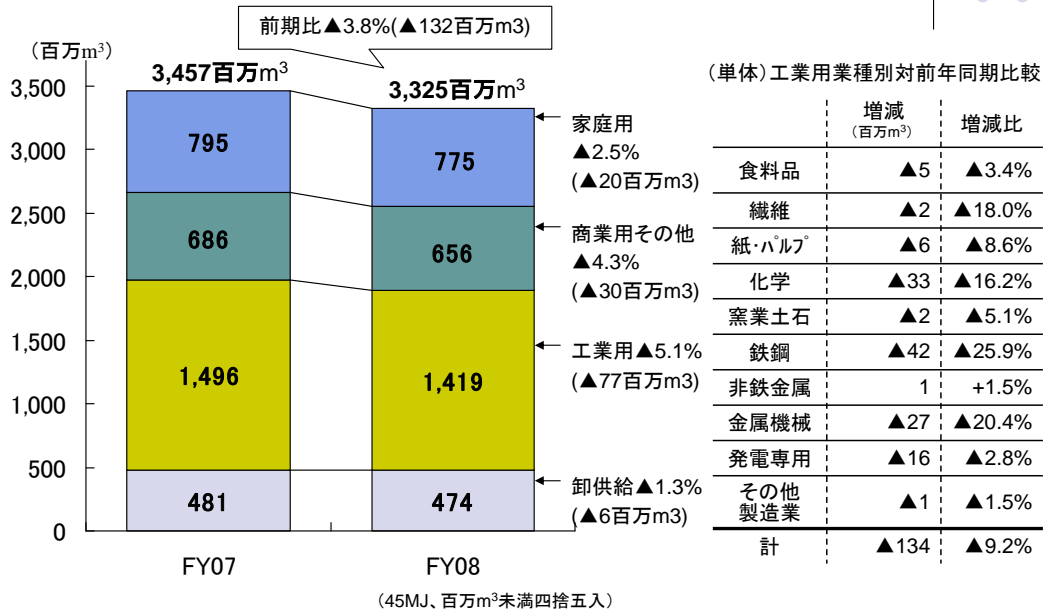
分野別では家庭用が、対前年同期▲8百万m³・▲0.4%減の21億16百万m³となりましたが、気温影響(今年度9ヶ月単純平均気温では19.4℃、▲0.2℃)+21百万m³を補正しますと対前年同期▲29百万m³・▲1.4%の減となります。このうち件数の増によるものが33百万m³・1.6%寄与しておりますので、1件あたりの使用量につきましては気温補正後で▲62百万m³・▲3.0%と見込んでいます。この中には、検針日程の関係で使用日数が前年より1.6日少ない分▲0.6%が含まれますが、残りは、世帯人員の減少、建物の鉄筋化、省エネ機器の普及等構造的な要因と、定量化はできませんがお客様の節約行動が起きているものと考えています。

業務用では、対前年同期▲80百万m³・▲3.5%減の21億71百万m³となりましたが夏場の低気温による空調需要の減が大きく、気温・日数影響量▲56百万m³を補正しますと対前年同期▲24百万m³・▲1.0%の減となります。これは対電力で民生用コジェネの稼動が下がったことが主な要因です。

工業用では、第3四半期からの急激な景気悪化に伴い、対前年同期1億53百万m³・3.6%増の44億13百万m³にとどまりました。この内発電専用向け販売量は、対前年2億60百万m³・16.7%増の18億20百万m³となりました。なお、第3四半期3ヶ月だけで見ると、工業用は対前年▲77百万m³・▲5.1%の減少となりました。

卸供給向けは、対前年同期67百万m³・5.2%増の13億54百万m³となりましたが、新規供給開始事業者はなく、既存ガス事業者26社と大口ガス事業者3社の引き取り増が要因です。

# 【連結ガス販売量】09.3月期第3四半期 10月~12月期間 対前年比較分析



景気悪化による工業用の需要減退が第3四半期から始まったため、第3四半期3ヶ月間の用途別販売量の対前年同期増減を示しましたので、ご参考にしてください。

工業用の業種別についても単体の対前年10~12月増減を示しましたが、鉄鋼・化学・機械金属分野における落ち込みが目立っており、その他の分野でも押しなべて対前年割れとなりました。

## セグメント別 売上高・営業損益



(億円)	売上高			営業利益		
	08.4-12	07.4-12	差異	08.4-12	07.4-12	差異
ガス	8,658	7,267	1,391 (19.1%)	185	527	▲342 (▲64.7%)
ガス器具	915	937	▲22 (▲2.4%)	34	43	▲9 (▲19.2%)
受注工事	319	370	▲51 (▲13.7%)	▲14	▲7	▲7 (-%)
不動産 賃貸	268	263	5 (2.2%)	70	63	7 (10.7%)
その他	2,670	2,187	483 (22.1%)	78	77	1 (1.3%)
消去又は 全社	▲1,218	▲1,016	▲202 (-%)	▲494	▲469	▲25 (-%)
連結	11,613	10,009	1,604 (16.0%)	▲139	234	▲373 (▲159.6%)

※セグメント別の売上高は内部取引含む／営業利益は配賦不能営業費用含まず

6

次に連結のガス以外のセグメントについてご説明いたします。

事業別では、新築住宅建設の停滞に伴い、ガス器具販売ならびにガス工事部門の売り上げがそれぞれ対前年▲2.4%・▲13.7%減少しました。その他部門は483億円・22.1%の増収となりました。営業利益ではガス器具販売ならびにガス工事部門が同様の理由でそれぞれ▲9億円・▲7億円減益となりました。不動産部門での7億円の増益は賃料収入の増加と減価償却費の負担減によるものです。

【連結】09.3月期第3四半期

非ガスセグメント 対前年増減要因



◆ ガス器具

新設件数減・既築の買い控えによる売上げ減、利益減

◆ 受注工事

建築不況等の影響による新設件数の減少

◆ その他事業

<エネルギーサービス事業>

お客さま件数増・単価上昇による売上げ増  
タイムラグによるLNG販売収益悪化  
(売上高: +326億円、営業利益: ▲3億円)

<工業ガス等>

単価上昇・販売量増による売上げ増  
原料費増による減益  
(売上高: +14億円、営業利益: ▲4億円)

<LPG等>

LPG単価上昇・販売量増による売上げ増  
原料費増による減益  
(売上高: +57億円、営業利益: ▲1億円)

◆ 不動産賃貸

建物賃貸増による売上げ増、減価償却減による利益増

<電力>

川崎天然ガス発電分電力の販売開始による  
売上げ増  
(売上高: +115億円、営業利益: ▲1億円)

<設備建築・エンジニアリング>

大型物件完成による売上げ増  
(売上高: +6億円、営業利益: +7億円)

事業部門別について少し補足いたします。ガス器具につきましては懸命の販売努力に勤めましたが、新築住宅・マンション建設の低迷、既存のお客様の買い控えにより売上げが減少しました。

ガス工事につきましては東京ガス管内での新設件数が対前年▲26千件・▲15.8%減少するなど、住宅建設の低迷に伴い売上げ・営業利益とも大幅に減少し、営業利益は▲14億円にとどまりました。

その他セグメントでは、売上高では、エネルギーサービス部門が原材料費の上昇に伴う単価上昇で325億円の増収、電力事業で川崎天然ガス発電の稼働開始に伴う東京ガス単体の付帯事業での売上増94億円等115億円、LPG事業での売上単価上昇による増収57億円が主な要因です。営業利益では、タンカー事業での増益12億円、設備建築・エンジニアリング事業での増益7億円がある一方、ホテル事業・工業用ガス事業・エネルギーサービス事業での減益▲12億円などで、ほぼ前年並みとなりました。

なお、関係会社57社の個別会社業績の単純合計では、売上高は366億円・11.4%の増収、経常利益は▲24億円・▲18.0%の減、当期純利益は37億円・45.8%の増加となりました。当期純利益の増は第1四半期計上のリース会計基準の変更に伴う特別利益78億円の計上が寄与しております。主要個別会社の増減では、売上高では原油価格の高騰に伴う単価上昇によって、エネルギーアドバンスが+144億円、東京ガスエネルギーが+56億円、当期純利益ではリース会計基準の変更に伴う特別利益の計上によるTG・クレジット・サービスの+52億円があります。



# 収支見通し



次に2009年3月期の通期業績見通しについてご説明いたします。

# 【連結】09.3月期 収支見通し



(億円)

## 前年同期比 増収減益

### 【ガス販売量減・ガス粗利改善】

景気影響を反映したガス販売量の減  
 (前年同期比 ▲126百万m3、▲0.9%)  
 スライドタイムラグによる粗利改善  
 (TG分)  
 タイムラグ +218億円  
 料金引き下げ(08年4月~) ▲97億円

### 【退職給付数理計算上の差異費用】

TG分 +74億円

### 【連結子会社の特別利益】

リース会計基準導入に伴う連結子会社の  
 特別利益発生 +78億円

<第4Qにおける原油価格(JCC)及び  
 円レート変動の年度収益影響>

原油 (+1\$/bbl)	▲2億円
為替 (+1円/\$)	▲9億円

	FY08見通し (今回)	対前期比	対前回 見通し比 (第2Q時点)
売上高	16,990	+2,116 (+14.2%)	▲820 (▲4.6%)
営業 損益	500	▲200 (▲28.6%)	+400 (+400.0%)
経常 損益	420	▲248 (▲37.2%)	+380 (+950.0%)
当期 純損益	330	▲94 (▲22.3%)	+240 (+266.7%)

<経済フレーム>

	FY08 (今回)	FY07 FY08(2Q)	増減	09.1-3
原油価格 (\$/bbl)	91.29	78.71 112.32	12.58 ▲21.03	50
為替 (円/\$)	100.94	114.44 105.55	▲13.50 ▲4.61	95

9

この見通しの経済フレームの前提は原油価格を1月・2月・3月をJCC50ドル/bbl、為替レートは1月・2月・3月を95円/ドルといたしました。また、ガス販売量につきましては1月中旬までのガスの供給量実績を勘案し、12月までの販売実績の推移、工業用・卸供給については個別のお客様の見通しを積み上げて作成しております。

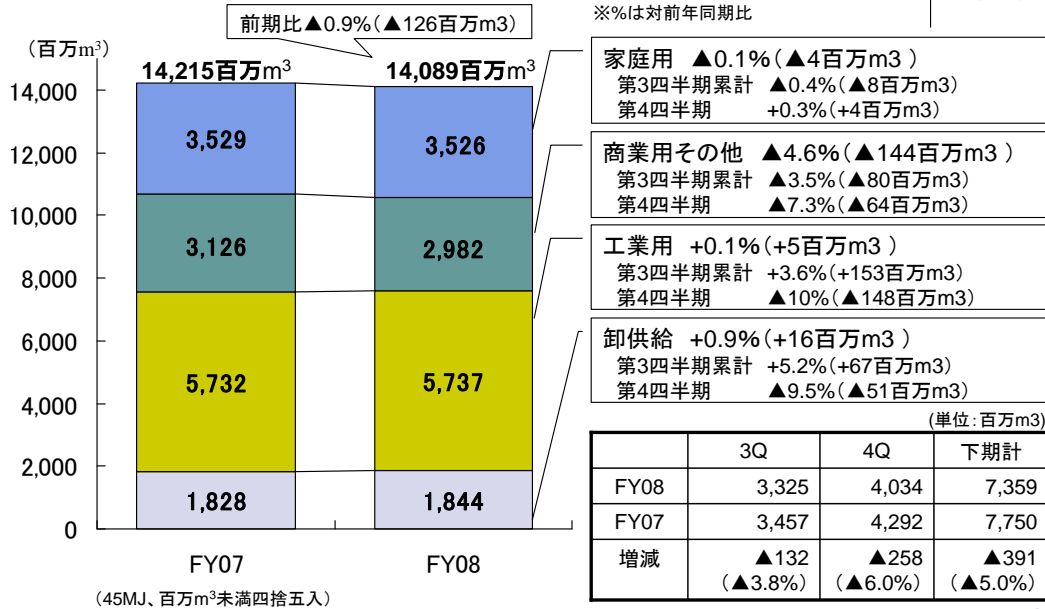
連結の年度通期見通しは、年初来の原料費の高騰によるスライドタイムラグの未回収の増加を主要因として、営業利益は対前年度▲200億円・▲28.6%減の500億円に、経常利益は同じく▲248億円・▲37.2%減の420億円に、当期利益では同じく▲94億円・▲22.2%減の330億円にそれぞれなる見通しです。

総売上高は原料費の高騰による料金スライドが寄与し、対前年2,116億円・14.2%増の1兆6,990億円と見込んでいますので、対前年増収減益となる見通しです。

なお、通期のスライドタイムラグの未回収の実額は前年度の▲702億円から218億円改善し▲484億円となる見込みです。また第4四半期の経済フレーム変化に対する収益感度は原油価格1ドルで2億円、為替1円で9億円を見込んでいます。

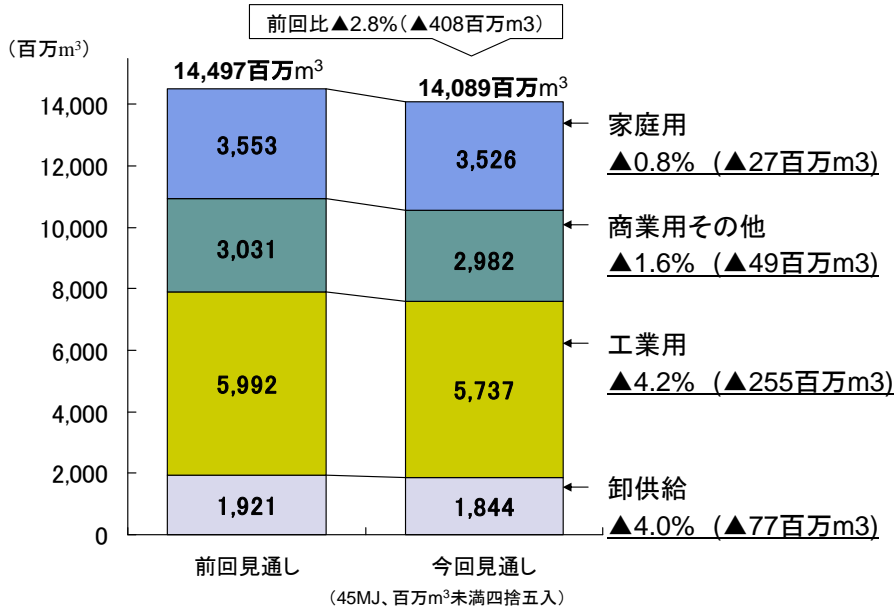
中間期に発表した見通しとの比較では、原油価格の急激な下落・円高状況での原材料費の負担減が寄与し、営業利益は+400億円増、経常利益は380億円増、当期利益では240億円増と、それぞれ改善されますが、下期のスライドタイムラグの未回収額が中間期の▲580億円から▲29億円に551億円改善されることが上方修正の主要因です。

# 対前年比較分析



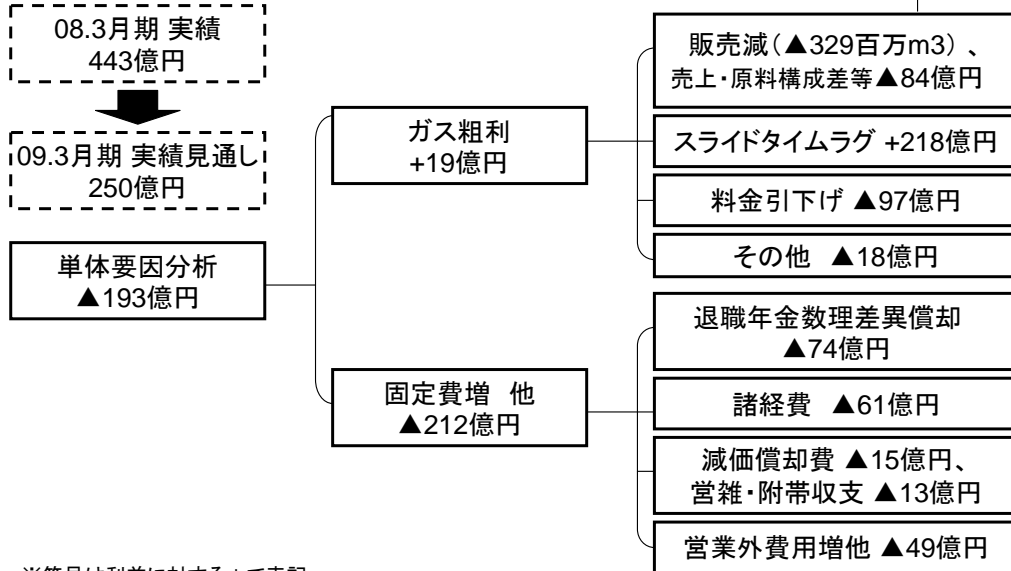
ガス販売量見通しは、第4四半期の景気後退は第3四半期よりも大きいと考え、家庭用の節約行動や、業務用の稼働減を追加織り込むと同時に、減産等景気低迷による工業用需要を、お客様ごとの個別情報を元に積み上げ、前回見通しよりさらに下方修正しました。卸供給についても供給先事業者からの個別見通しを積み上げ、工業用途の減少を反映しました。この結果、対前年との比較では、第3四半期の3ヶ月が▲1億32百万m<sup>3</sup>・▲3.8%減に対して第4四半期の3ヶ月は▲2億58百万m<sup>3</sup>・▲6.0%減と減量を加速し、通期では▲1億26百万m<sup>3</sup>・▲0.9%の減の140億89百万m<sup>3</sup>と、対前年マイナスを見込みました。

# 【連結ガス販売量】09.3月期 見通し 対前回見通し(第2Q時)比較分析



中間期の見通しとの比較では▲4億8百万m<sup>3</sup>・▲2.8%減を見込みました。

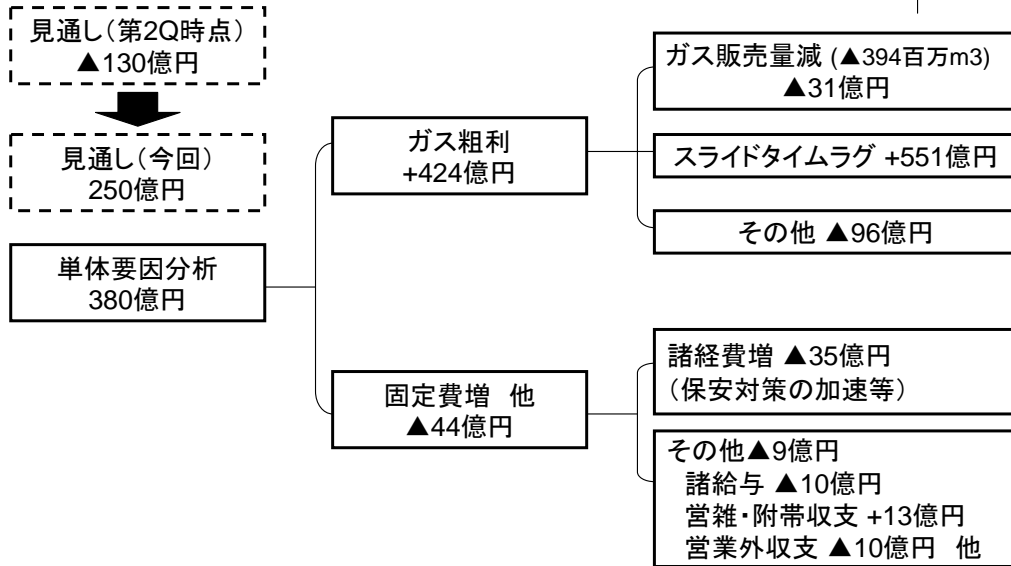
## 【単体経常利益】09.3月期 見通し 対前年増減要因分析



※符号は利益に対する±で表記

単体経常利益見通しの対前年との増減を要因別に示しました。ご参考になさってください。

## 【単体経常利益】09.3月期 見通し 対第2Q時点見通し 増減要因分析



※符号は利益に対する±で表記

13

単体経常利益の中間期見通しとの変化の増減分析を行っています。

単体のガス粗利で見ると、中間期見通しとの比較では、売上高は供給約款・選択約款の料金単価こそ変わらないものの、大口・卸のスライド変化等で▲269億円、販売量の減少▲3億94百万m3により▲256億円など、合計▲560億円の減収となる見込みです。

一方、単体の原料費は、中間期見通しの下期の前提105円/ドル・105ドル/bblに対して、今回下期は95.76円/ドル・62.94ドル/bblとそれぞれ9.24円の円高、▲42.06ドルの原油安と見込んでいることから、為替差で▲318億円、原油価格差で▲368億円、物量減で▲225億円それぞれ負担減となり、その他の要因▲73億円を含めて原料費全体では▲984億円の減となる見込みです。

その結果、ガス粗利としては424億円の対中間見通し改善となる見込みですが、その訳は販売量減影響が▲31億円の減、スライドタイムラグ差他以455億円の改善です。スライドタイムラグは前回見通しの未回収額▲1,035億円に対して、▲484億円に551億円改善する見込みで、対前年▲702億円に対しては218億円改善する見込みです。

単体の固定費側では中間期見通しに対して47億円の負担増を見込みました。内訳は今回の新中期経営計画にも織り込んだ保安対策の加速を先行して実施することに伴う修繕費・除却費等諸経費35億円の追加支出、諸給与の営業雑収支との入繰りによる10億円の増等です。

# 参 考



これらの結果、先ほど申し上げたように最終当期純利益は連結で330億円、1株当たり利益は12.27円、ROEは4.2%と見込んでおります。また、単体では最終当期純利益は170億円、1株当たり利益は6.32円、ROEは2.6%と本年度の8円配当所要利益214億円を下回る水準にとどまりますが、期末配当については次期繰越金を取崩し、従前どおり4円、通期で8円を維持します。なお、この利益見通しの下では来年度中の自社株取得は計画しておりません。

## 【連結】09.3月期第3四半期 主要計数表



(億円)	08.4-12 実績	07.4-12 実績	差異	(億円)	08.4-12 実績	07.4-12 実績	差異
売上高	11,613	10,009	+1,604 (+16.0%)	総資産(a) *	18,290	17,036	+1,254 (+7.4%)
営業損益	▲139	234	▲373 (▲159.6%)	自己資本(b) *	7,157	7,690	▲533 (▲6.9%)
経常損益	▲180	222	▲402 (▲181.3%)	自己資本(% 比率(b/a) *	39.1	45.1	▲6.0
四半期 純損益(d)	▲73	127	▲200 (▲157.7%)	有利子負債 残高(c) *	7,580	5,587	+1,993 (+35.7%)
EPS(円)	▲2.78	4.79	▲7.57 (▲158.0%)	D/Eレシオ (c/b) *	1.06	0.73	+0.33
TEP	▲438	▲157	▲281 (-%)	営業キャシュ フロー(d+e)	953	1,184	▲231 (▲19.5%)
WACC(%)	3.4	3.7	▲0.3	減価償却(e)	1,027	1,056	▲29 (▲2.7%)
ガス販売量 (百万m3)	10,055	9,923	+132 (+1.3%)	設備投資	1,014	877	+137 (+15.7%)
原油(\$/bbl)	105.05	73.47	+31.58	ROA(%)	▲0.4	0.7	▲1.1
為替 (円/US\$)	102.92	117.35	▲14.43	ROE(%)	▲1.0	1.7	▲2.7

(注) EPSの分母は期中平均株数、\* 印項目の前年同期は2008年3月末数値を表示  
ROA=当期純利益/総資産(期首期末平均)、ROE=当期純利益/自己資本(期首期末平均)



## 主要計数表



(億円)	FY08見通し (今回)	FY08見通し (第2Q時点)	対第2Q時点 見通し	FY07実績	対前期
売上高	16,990	17,810	▲820 (▲4.6%)	14,874	2,116 (+14.2%)
営業損益	500	100	+400 (+400.0%)	700	▲200 (▲28.6%)
経常損益	420	40	+380 (+950.0%)	668	▲248 (▲37.2%)
当期純損益	330	90	+240 (+266.7%)	424	▲94 (▲22.3%)
EPS(円)	12.27	3.40	+8.87 (+260.4%)	15.94	▲3.67 (▲23.0%)
TEP	▲133	▲378	+245	17	▲150
WACC(%)	3.4	3.4	—	3.6	▲0.2
ガス販売量 (百万m3)	14,089	14,497	▲408 (▲2.8%)	14,215	▲126 (▲0.9%)
原油 (\$/bbl)	91.29	112.32	▲21.03	78.71	+12.58
為替 (円/US\$)	100.94	105.55	▲4.61	114.44	▲13.5



## 【連結】09.3月期見通し－②

# 主要計数表



(億円)	FY08見通し (今回)	FY08見通し (第2Q時点)	対第2Q時点 見通し	FY07実績	対前期
総資産(a)	17,660	18,000	▲340 (▲1.9%)	17,036	+624 (+3.7%)
自己資本(b)	7,960	7,790	+170 (+2.2%)	7,690	+270 (+3.5%)
自己資本比率(%)(b/a)	45.1	43.3	+1.8	45.1	—
有利子負債残高(c)	6,480	6,690	▲210 (▲3.1%)	5,587	+893 (+16.0%)
D/Eレシオ(c/b)	0.81	0.86	▲0.05	0.73	+0.08
営業キャッシュフロー-(d+e)	1,740	1,500	+240 (+16.0%)	1,849	▲109 (▲5.9%)
当期純利益(d)	330	90	+240 (+266.7%)	424	▲94 (▲22.3%)
減価償却(e)	1,410	1,410	—	1,424	▲14 (▲1.0%)
設備投資	1,420	1,420	—	1,380	+40 (+2.9%)
ROA(%)	1.9	0.5	+1.4	2.5	▲0.6
ROE(%)	4.2	1.2	+3.0	5.4	▲1.2

